

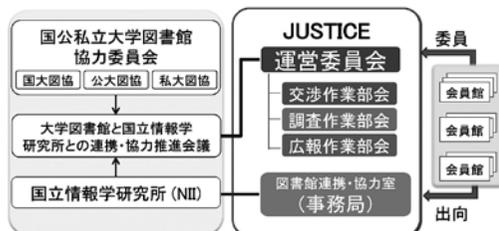
# 大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)事務局 出向を終えて

中央図書館学生センター 収書・整理課 玉川 恵理

## 1. はじめに

本稿は、筆者が大学図書館コンソーシアム連合<sup>1</sup>(以下、JUSTICE)の事務局員として、国立情報学研究所(以下、NII)に出向していた2年間(2019年4月～2021年3月)について報告するものである。

JUSTICEとは、主に電子リソース製品の利用条件等についての出版社との交渉や、電子リソース契約業務担当者向けの説明会の開催等を行い、大学の学術情報基盤整備に貢献することを目的として、2011年4月に設立したコンソーシアムである。国公立大学の図書館553館(2021年8月現在)が会員となっている。運営委員会と3つの作業部会(交渉・調査・広報)があり、会員館の職員50名ほどが委員として用務にあたっている。事務局はNIIにある図書館連携・協力室内に置かれ、会員館からの出向職員が、JUSTICEの活動に必要な日常的業務を遂行している。事務局長1名と事務局員2名の体制で、事務局員は、交渉担当と、調査・広報・庶務担当に分かれており、筆者は後者を担当していた。



< JUSTICE の組織図 >

## 2. 事務局出向で得たもの

筆者は図書館以外での業務経験がなく、狭い見でしか仕事ができていることに危機

感を持っていた。そんな折に2年の期限付きでの出向の話を上司からいただいた。大きなコンソーシアムの事務局の仕事が果たして自分に務まるだろうかという不安は大いにあったが、思い切って出向を決意して本当に良かったと思っている。

JUSTICEの活動の全てに関わる事務局の業務は、想像していたよりもはるかに多岐にわたるものだった。運営委員会や各作業部会の会議資料の作成や予算管理、会費徴収などのいわゆる組織としての一般的な事務業務はもちろんのこと、「版元提案説明会」や「研修会」といったイベントの運営、外部団体イベントへのブース出展、国際会議への参加、調査統計の集計、広報誌の編集、講演発表、原稿執筆など、多くの業務を経験した。同時並行で進行する業務をどう効率よく処理するかという、スケジュール管理能力も磨くことができた。メインの担当ではなかったが、発言記録をとる役割ではほぼすべての交渉に参加し、出版社交渉の最前線を目の当たりにすることもできた。

さらに、2020年はコロナ禍の影響により、集合開催のイベントが全てオンライン開催に変更となった。JUSTICEで開催するイベントは、電子資料契約初任者向けに基礎的な講義や意見交換を行う「研修会」、2日間にわたり出版社自ら会員館に対して提案内容説明を行う「版元提案説明会」、審議事項について十分な説明を行い、議決を取る必要がある「総会」と、それぞれ特性が異なる。特性に合ったウェブ会議システムは何か、オンライン開催だけでは不足する部分をどう補うかといった開催方法の詳細な検討を行って実施するこ

とで、様々なパターンのオンライン開催ノウハウも身につけることができた。コロナ禍は出向当初には全く想定していなかったことであったが、ある意味では限られた2年間でより多くの経験を積むことができたと言えるかもしれない。

人的ネットワークが構築できたことも大きな収穫であった。JUSTICEの委員は全国各地の国公立大学職員であり、事務局として委員と連絡を取り合うことも多かった。一致団結してイベント等に取り組むことで連帯感が生まれ、「自分の大学ではこうしている」といった情報交換を気軽にできる関係性を築くことができた。関西圏以外に出張することも少なかった筆者にとって、全国の、とりわけ国公立大学の職員と知り合う機会はほぼない。この2年で全国に数十人もの同じ業務に携わる知り合いができたことは心強く、今後大きな財産になることは間違いない。

### 3. JUSTICEの会員館として

JUSTICEでは事務局員の出向者を探すことが年々難しくなっている。業務の外部委託などで図書館職員がほとんどいないという図書館では厳しいかもしれない。東京近郊以外であれば筆者のように出向に際して転居が必要になることも問題となるだろう。ただし、出向が可能な環境で「役目を果たせるかどうか自信がない」ということだけが障壁であるならば、ぜひ挑戦してもらいたい。前項で述べたような経験を短期間で得ることはなかなかできないと思う。ジャーナル契約業務の経験が豊富になれば事務局にはなれないというわけではないので、多くの業務経験を積みたい若手職員にこそ、ぜひ出向を検討してもらいたい。出向が難しくても、作業部会委員としてやNIIの実務研修生<sup>2</sup>として参加する方法もある。JUSTICEの活動は会員館職員の協力なくしては立ち行かない。より多くの会員館がJUSTICEの活動に参加してくれることを願っている。

### 4. おわりに

本学では図書館からの外部機関への出向は前例がなく、上司には関係各所への様々な調整をいただいた。筆者の在籍出向により実質1名減となった職場には大いに負担をかけた。この貴重な2年間で与えていただけたことに深く感謝を申し上げたい。

2年ぶりに戻ってきた図書館は、間近に控えた移転に向けての準備の真只中にある。やるべきことが山積している状況だが、こうした大きな変革のときは、業務手順の見直しや変更を行う絶好のチャンスでもあるので、積極的に改善提案を出していきたいと思う。今後、出向で得た知見を職場に還元し、業務に大きく貢献することで、この出向が有義なものであったということを証明したい。

---

<sup>1</sup> 大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE)  
<https://contents.nii.ac.jp/justice> 参照

<sup>2</sup> 国立情報学研究所実務研修  
<https://contents.nii.ac.jp/hrd/jitsumu> 参照